

# 名教スタッフ版

## よめよめグラフィック

名まえ

都築 良仁

★読んだ本について書いてみよう。

ひ	付
6	2
日	月

ペー	すう
ジ	数
2	1
1	5

① 本の題名

スティープ・ジヨブズだったら、こうするね！ カリスマリーダーの問題解決力

② 本の作者

桑原晃弥

③ 私のおすすめの本を、紹介します。

今回は、昨年亡くなったアメリカの実業家で、アップル社の設立者のひとりである、スティープ・ジヨブズ氏の本を選んだ。彼は「iPad」や「iPhone」の生みの親である。この本は、彼がどのような人生を歩んできたかが書かれているのではない。彼が人生の中で問題にぶつかったとき、それをどう解決したかという事実から教訓を見出そうというものである。

ジヨブズ氏のやり方はかなり大胆で型破りだ。大勢の人が彼の考え方に説得力を感じ、「カリスマ」として崇拜しているのは、彼が成功者であるからこそだろう。「天才」である彼をただ真似しても成功するとは限らない。私は「彼は天才なので、真似することすら無理だ」と思いながらこの本を読んできました。もうその時点でダメなのかもしれない。しかし、私の心に響いた教訓もある。以下に挙げておく。

★ ★ ★ ★ ★ 「自分の居場所は自分で作る」：何事も見込みがないからやめるのではなく、他に見込みがあるときにやめるべきだ。自分にできることがあるうちは、精いっぱいやるべき。自分にできることがなくなったら、新たにできることを作ればいい。

★ ★ ★ ★ ★ 「うまくいくまでやり直す」：何かを続けるか、やめるかは、自分がどれほどの情熱でやってきたかで決めるべき。情熱次第で大抵のことはやり直せる。

「好きだからの力は大きい」：熱意は人に伝わらる。自分が大好きなことを伝えれば、みんなの関心を引き、感動を与えることができる。

「強みに集中せよ」：人が成果をあげるのは、弱みではなく、強みによってである。自分の強みはあまり挙げられないが、弱みを挙げたらきりがなく、ず。それらを補正するには、人生は短すぎる。

「まわり道は無駄ではない」：努力と成果はいくも比例するとは限らない。努力が結果に反映されない日々を過ごすのはつらいが、積み重ねた努力は、最もふさわしい時期に実ると信じて進むべき。

★ ★ ★ ★ ★ 「我慢さえできればうまくいく」：こだわり続けることができる忍耐力があれば、うまくいったも当然。こだわり続ける情熱がないと、人はあきらめる。「予定は本当にやりたいことで埋める」：ふたつを同時に選択できることは世の中には数少ない。一つひとつ選択が人生を決めていく。常に自分にそれが本当にやりたいことなのかを問うべき。

★ ★ ★ ★ ★ この本を読んで感じたのは、「情熱」。「好きだから」がジヨブズ氏のパワーの根底にあるということだ。「好きなこと」を見つけてがんばることで、結果ができる。「がんばり」は、究極のところ、好きという気持ちから生まれるということだ。

ぜひ、読んでみてください。